

# 会社説明会

**B** 株式会社 **乃村工藝社**

証券コード: 9716

<http://www.nomurakougei.co.jp>

このプレゼンテーションには、将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。  
社会・経済・競合状況の変動等に関わるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

『集客空間におけるプロデューサー集団』

生活者の集う場所

集客空間

- ・専門店(小売店舗、飲食店舗など)
- ・ショッピングセンター
- ・デパート
- ・ショールーム
- ・展示会イベント
- ・博覧会
- ・博物館 美術館
- ・テーマパーク



私たちのお客様(発注者)が望むことは...

売れる空間を創ること

販売促進、宣伝効果のある空間を創ること

生活者にとって、買いやすい・見やすい・行きたくなる場所の提供

## 内装・展示のデザイン・設計と施工をしている会社

### 企画・デザイン・設計

・テーマ、目的に沿った店舗、イベントにするための知恵の提供

### 制作・施工・運営管理

・最適なメーカー・工事会社を外部調達し全体の総合管理(エンジニアリング)を行う

### エンジニアリング

内装・展示(床・壁・天井・展示台・什器)

設備(照明・音響・給排水・防災設備)

情報(映像・コンピュータシステム・ロボット・模型・サイン・POP広告)

運営(人材の派遣・主催者の支援業務)

## これまでのディスプレイ業界

市場規模は約1兆5000億円前後と推定  
売上100億円以上は上位の15社程度  
売上上位30社の合計は約5500億円前後

## 今後のディスプレイ業界

企業業績の回復などにより緩やかな成長  
総合プロデュースができる大手に集中・集約  
優良顧客の確保により安定成長

## 競合他社

上場会社では:

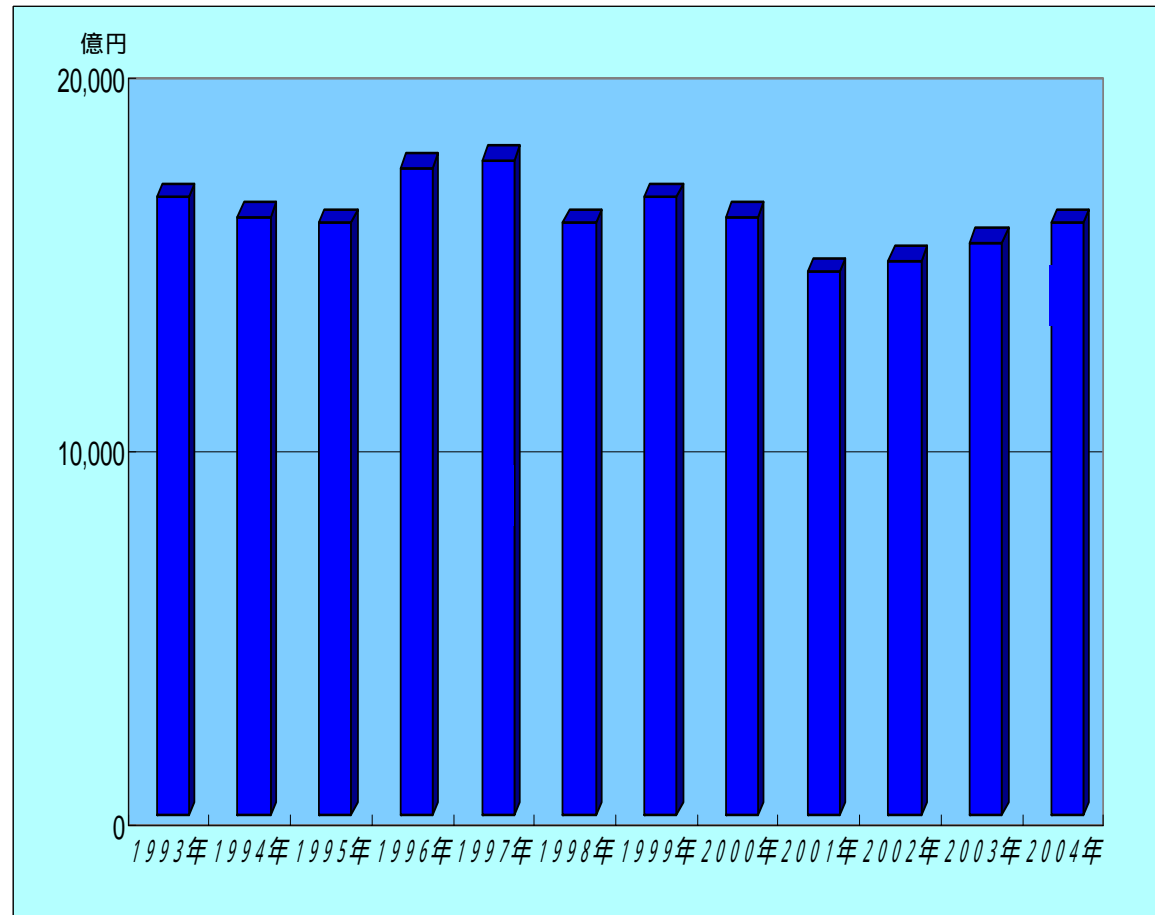
丹青社(9743)、スペース(9622)

日商インターライフ(1986)、ラックランド(9612)

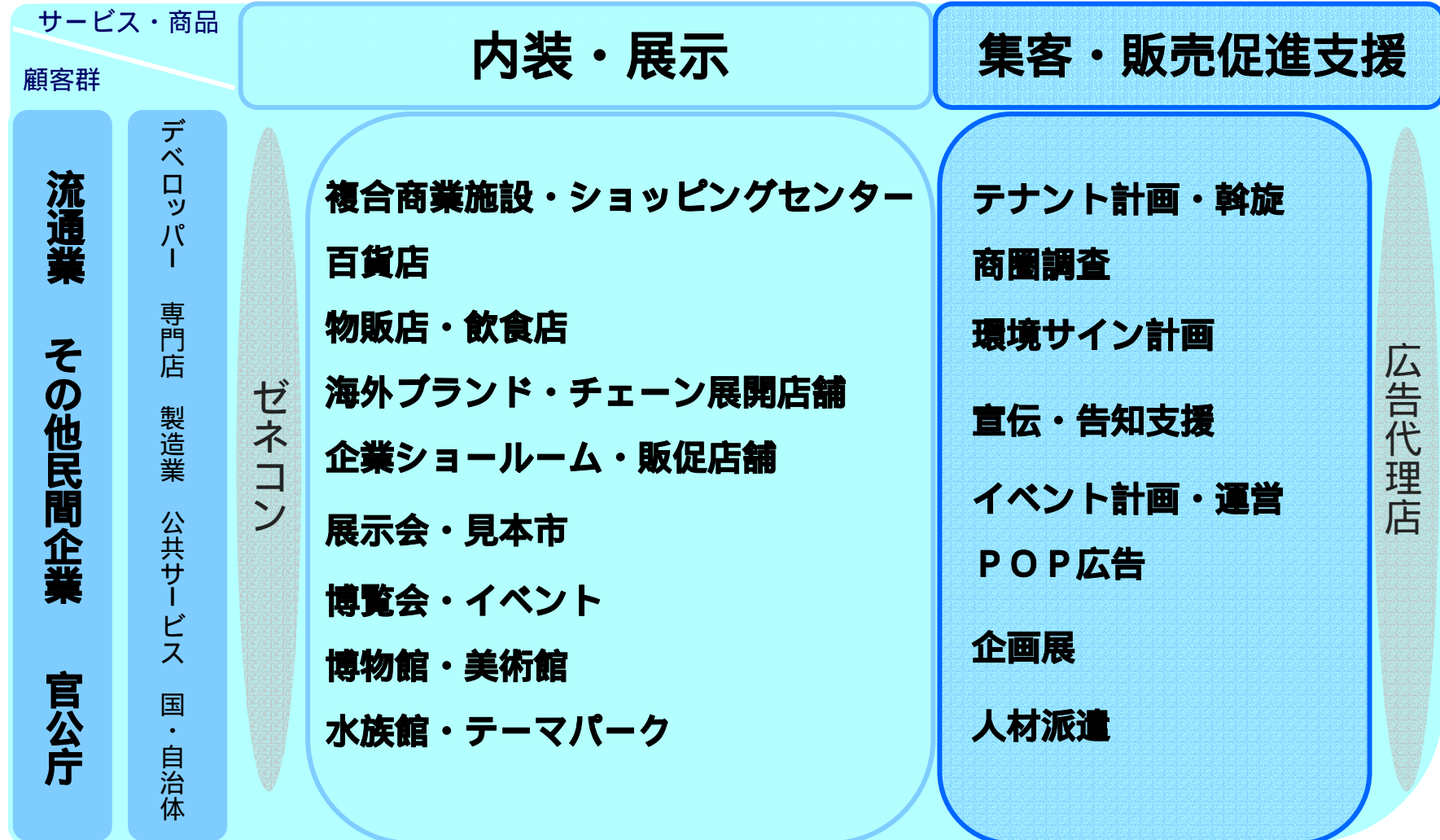
アスクプランニングセンター(9756) など

広告代理店、イベント会社も一部競合

## ディスプレイ業の市場規模



参考: 矢野経済研究所調査ほか



ノムラグループ=優良企業とのパートナーシップを構築

## 安定した顧客群

### ・各業界の主要企業がお客様

#### 【複合商業施設・ショッピングセンター】

JRグループ、三菱地所、三井不動産  
森ビル、オリックス など

#### 【百貨店】

高島屋、伊勢丹、阪急、三越 など

#### 【ブランド・アパレル・物販・飲食店】

グッチグループ、アディダス、ワールド  
コーチジャパン、サザビー、トイザラス  
RF1、アンデルセン など

#### 【企業ショールーム・販促店舗・展示会】

トヨタグループ、ソニーグループ  
松下グループ、NTTグループ  
京セラ、TOTO、東京三菱銀行など

#### 【その他】

中央省庁・各自治体  
オリエンタルランド、セガ  
ユニバーサルスタジオジャパン  
電通、博報堂 など

### 顧客別売上の割合

- ・商業関係(流通小売・飲食) 約40%
- ・メーカー、通信、電力、金融等 約30%
- ・官公庁関係 約20%
- ・その他 約10%

### 年間の顧客数

約1700前後

### 経常顧客の割合(民間企業のみ)

売上の約40%~45%

3年連続3000万円以上のお取引

### 元請けの割合

売上の約80%前後

### 特命受注の割合

売上の約70%前後

前年までの実績をもとにした傾向値

## 顧客からの高い信頼

企画デザインによる差別化ができる体制

営業440名 / 企画・デザイン270名  
制作250名 / スタッフ・事務160名

高品質を提供する専門技術、ノウハウを有する部門・子会社を保有

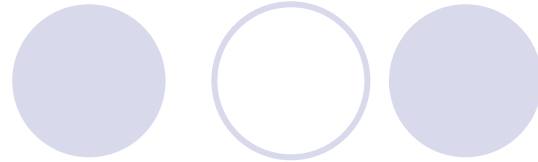
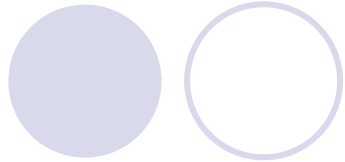
・業界トップの売上高

・常に年間売上高の50%を超える(400億円前後)引合・受注残

## 財務体質の健全性

良質な資金の流動性(無借金経営を継続)

適正な自己資本比率



2006年2月期<平成17年度>

業績計画について

このプレゼンテーションには、将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。  
社会・経済・競合状況の変動等に関わるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

## 2006年2月期(H17年度)の中間決算報告

(百万円)	2005年2月期 (平成16年度) 8月中間決算	2006年2月期 (平成17年度) 8月中間決算
売上高	32,335	37,471
営業利益	1,003	1,490
経常利益	1,070	1,578
中間純利益	477	740

2006年2月期 <平成17年度> 連結業績計画

	2005年2月期 (H16年度)実績	2006年2月期 (H17年度)計画
売上高	73,442百万円	76,000百万円
総利益	12,283百万円	13,000百万円
販管費	10,256百万円	10,600百万円
営業利益	2,027百万円	2,400百万円
経常利益	2,145百万円	2,500百万円
当期純利益	1,049百万円	1,250百万円
一株あたり利益	36.4円	22.0円
株主資本利益率(ROE)	5.1%	5.7%
年間配当	16.0円	10.0円

平成17年4月1日をもって株式分割(1:2)を実施しております

## 2006年2月期(H17年度)の市場別の計画

(百万円)	2005年2月期 (H16年度)実績	2006年2月期 (H17年度)計画
専門店市場	16,700	17,000
百貨店・量販店市場	9,897	10,000
複合商業施設市場	5,344	4,500
広報・販売促進市場	18,522	19,500
博物館・美術館市場	11,129	10,000
余暇施設市場	2,498	3,500
博覧会・イベント市場	3,056	6,000
その他市場	6,293	5,500
合 計	73,442	76,000

# 愛知万博(日本国際博覧会)について

2005年「愛・地球博」

平成17年3月25日～9月25日

入場者総数は目標の1,500万人を大きく上回る  
2,200万人以上と大成功を収める

## ✔ 売上高: 約80億円前後を見込む

H16年度 売上: 約20億円

H17年度上期 売上: 約30億円

H17年度下期 売上: 約30億円を計上予定

### 過去の国際博覧会実績

つくば万博 約45億円

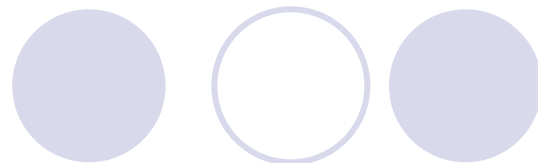
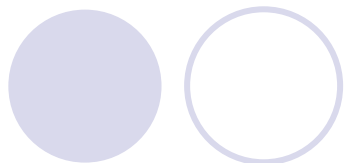
大阪花博 約37億円

### 【代表案件】

下記は元請と下請(広告代理店から)を含んでおります

会場演出 / グローバルハウス / 瀬戸日本館 / NEDOパビリオン / トヨタグループ館  
ワンダーサーカス電力館 / JR東海超電導リニア館 / わんぱく宝島 / 中部千年共生村  
名古屋市パビリオン / モリゾー・キッコロメッセ / サツキとメイの家 / 南アフリカ館  
エジプト・アラブ館 / ギリシャ館 / イギリス館 / アサヒパノラマレストラン / など万……

➡ 展示工事のみならず、パビリオン運営や主催者の要請を受けて、外国政府出展や  
営業出店の事業を総合的に管理する業務等を推進



## 中期経営計画について

このプレゼンテーションには、将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。  
社会・経済・競合状況の変動等に関わるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

集客環境創造企業としての地位を確かなものとする

株主資本利益率を高め、企業価値を向上させる

お客様の商売繁盛支援のための事業の環を回す

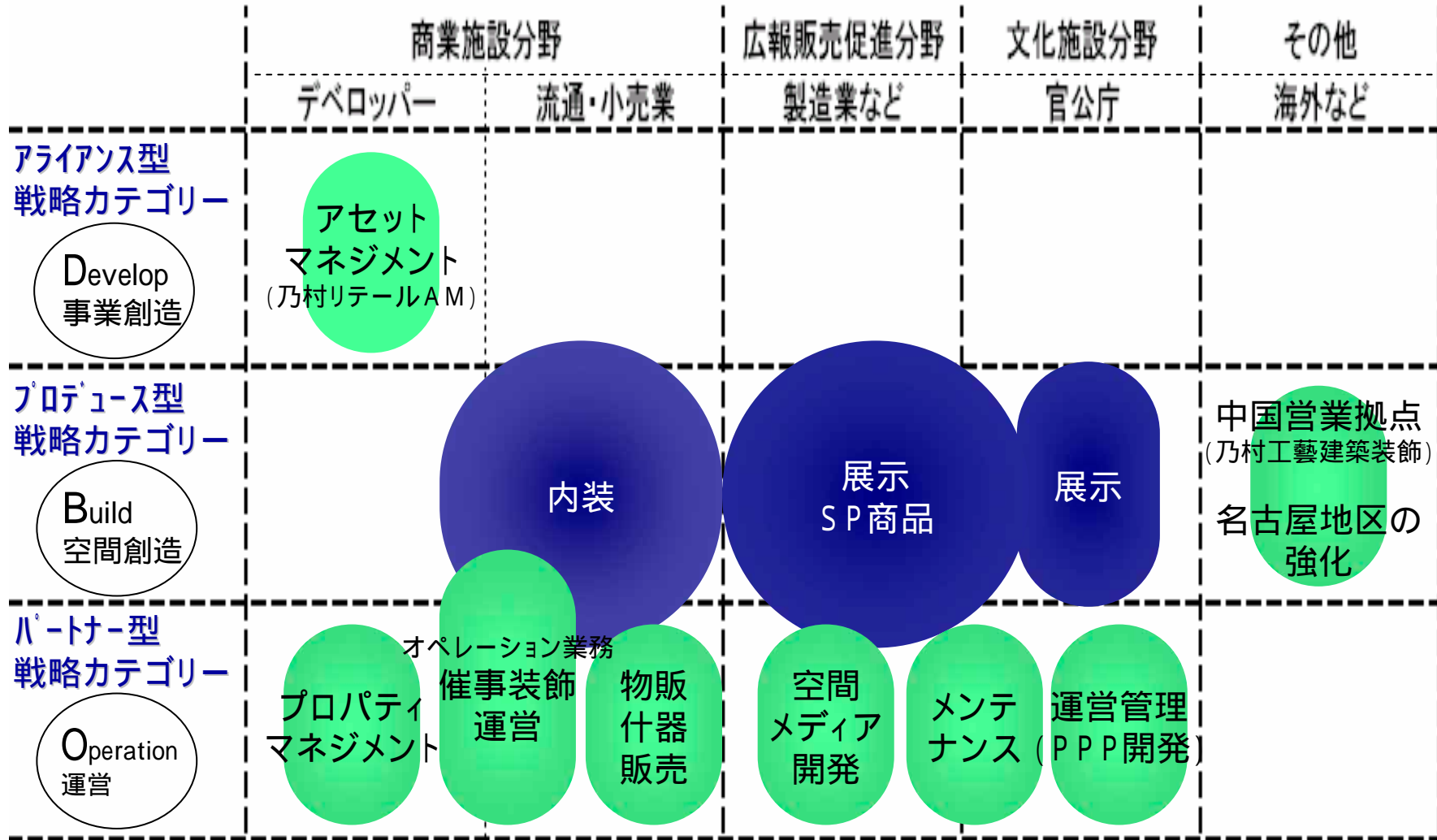


<Mission>

空間創造事業において、競争力が更に高まり、営業利益率および経常利益率4%以上が安定的に確保できる収益力が定着している

デベロップ&オペレーション領域において新たなビジネスが「事業」として確立している

# 中期経営計画の戦略フレーム



# 中期経営計画の推進について

Develop  
事業創造

- ① 商業を中心としたアセットマネジメント事業  
 販売用不動産の取得を進めファンド組成の準備段階

Build  
空間創造

- ② 中国営業拠点の設置 乃村工藝建築装飾(北京)有限公司  
 日系企業の現地法人からの受注増加

Operation  
運営

- ③ 商業施設のプロパティマネジメント事業  
 商社・デベロッパーとのコラボレーションによる拡大
- ④ グループ会社の再編  
 百貨店オペレーション(展示装飾・催事運営)会社統合
- ⑤ 空間メディアの開発  
 顧客のブランディングのためのアドショップ(駅などのスペース)展開等
- ⑥ 文化施設の運営管理(指定管理者制度)  
 長崎県歴史文化博物館 運営管理スタート  
 葛飾「寅さん記念館」管理者に内定

2008年2月期 <平成19年度> 連結業績計画

売上高 80,000百万円以上

営業利益 3,200百万円以上

経常利益 3,300百万円以上

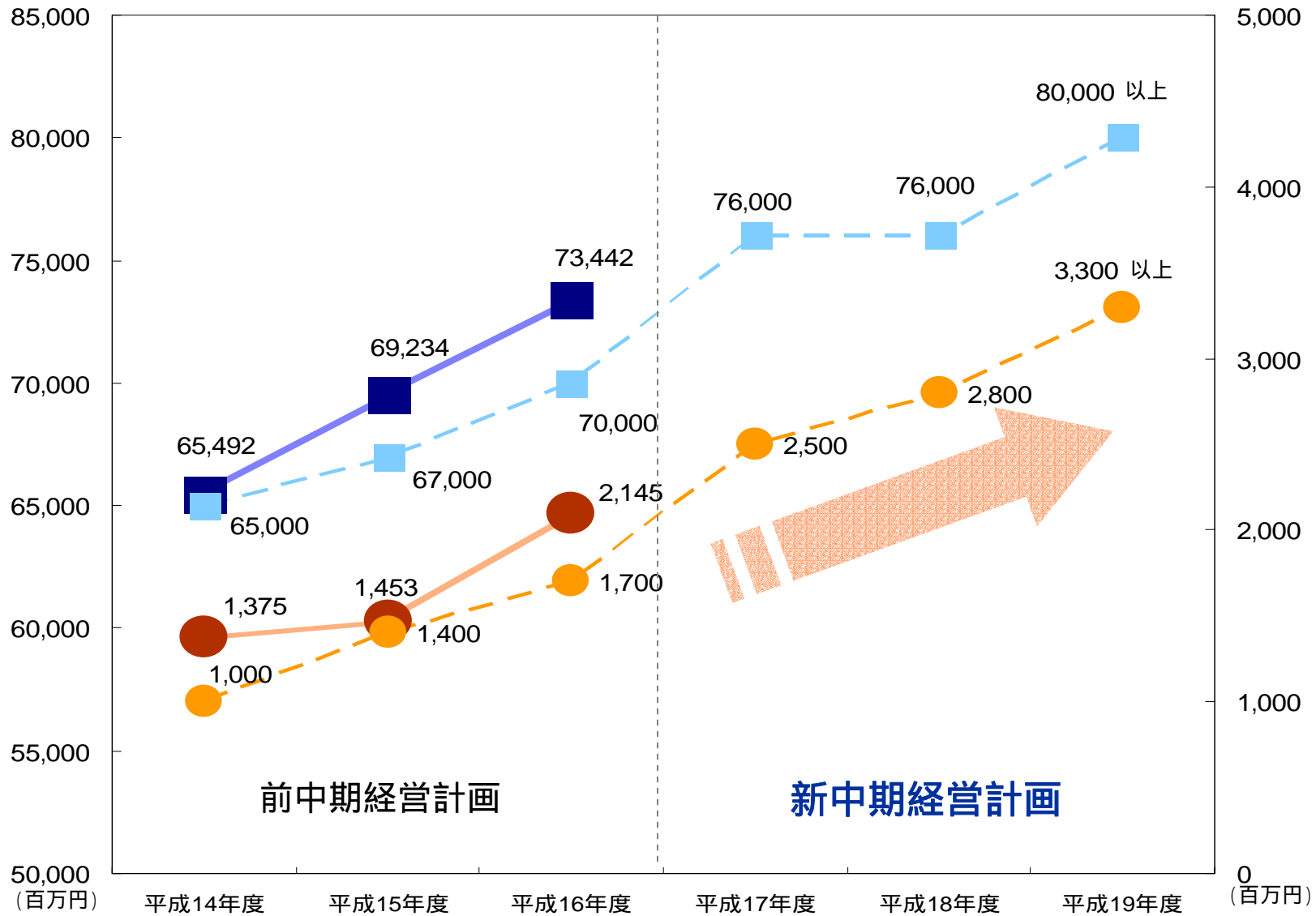
当期純利益 1,800百万円以上

---

一株あたり利益 30.0円以上

株主資本利益率(ROE) 7.0%以上

一株あたり利益は平成17年4月1日に実施した株式分割(1:2)後の株式数に基づき算出しております



■ 連結売上高   
 ■ 期首計画売上高   
 ● 経常利益   
 ● 期首計画経常利益

- ✔ 株主資本利益率7.0%以上を目指す
- ✔ 株主様への還元策:一層の高配当を目指す

実施してきた株主還元策

### 2期連続増配

- ➡ 平成17年2月期実績:配当性向56.5%  
年間配当金 1株当り16円(6円増配)

### 株式分割(無償交付)の実施

- ➡ 1株:2株の株式分割  
(平成17年2月15日基準日・4月1日実施)